

2022年度第8回NPO法人共同保存図書館・多摩理事会

1 日 時：2023年3月23日（木） 午後7時30分から午後9時40分

2 方 法：ZOOMアプリを媒介にしての遠隔会議

3 議決権のある理事：9名

出席者：座間直壯、清田義昭、齊藤誠一、田中ヒロ、中川恭一、保坂一房、堀 渡

欠席者：手嶋孝典、堀越洋一郎

事務局員の参加者：雨谷逸枝

(1) 第1号議案 会員の動向について【報告】

・2023年3月23日（本日）現在

正会員：個人80名 2団体 賛助会員：個人35名 2団体 計：個人115名 4団体
（合計119名）

（この数は前回と変わらないが、今年度末までで退会したいと申し出られている方が、
賛助会員で5名おられる）

(2) 第2号議案 第40回多摩デポ講座「東京都公文書館の見学会」の実施結果について【報告】

- ・3月13日（月）午後1時30分～3時で実施できた。バックヤードに狭いところがあるとの同館の指示で、受入れは15人まで。参加者は、当日に都合で欠席した方が1人あり、14人だった。内訳は多摩デポ会員12人。現職の図書館職員は3人。残りながら現職の図書館職員の応募が少なかった。
- ・案内してくれた同館職員の方が、専門員ではないということだったが、この施設の性格や歴史、事業に大変詳しい方で、説明も親切で的を射ており、参加者には好評だった。
- ・集会室での施設の概要説明を受けてからバックヤードに入れてもらい、書架に文書が並ぶ様子や、保存箱に入った地図資料なども見せてもらった。新設の建物の、外部からのほこりや虫の侵入を防ぐ対策が印象的だった。
- ・館の性格は、それほどとつきやすい施設や事業とは言えないだろう。集会室に戻った後で、参加者それぞれから多方面の質問が出され、職員の方が詳しく答えていることを皆が共有できた。それが大変勉強になり、面白かったのではないかな。
- ・これまでに作成され保存している「紙の公文書」の量は膨大だが、現在は、文書を作成する各課で、当初からデジタル化して保存するようにもなっている。それを勘案して、この施設規模になっているとのことだった。
- ・新年度の年度初めの仕事が一段落する4月中旬以降、再度申込んで見学会をしてもらうことを、担当職員の方とは約束してもらっている。今回は受入れ定員の関係で

参加を見送った理事、事務局員の都合を中心に、せいぜい会員MLの案内の範囲で、4月中旬以降に次回の見学を行っていく予定である。

(3) 第3号議案 多摩デポブックレット16『地域資料とデジタルアーカイブーたましん地域文化財団歴史資料室を例に一』の発行について【報告】

- ・今年度内での発行を目標に、10月に著者・けやき出版の担当者・多摩デポ事務局の3者でスケジュール調整を行い編集作業に入った。3月10日に念校を終了し、印刷、製本に回った。現在は、3月31日に納品される予定となっている。
- ・出版社から示された制作費の見積りは、用紙代の異常な高騰が原因とのことで、従来通りに組んであった今年度予算を大幅に上回るものだった（発行部数1,000部は変更なしで、473,000円。前号より約10万円の増額）。
- ・これまで多摩デポブックレットは、発行すると会員には1部ずつ配布、他は、多摩デポでも販売するが、けやき出版から書店ルートで販売してきた。
- ・ブックレットとして印刷するには、価格を決めて奥付や裏背表紙に価格を印刷しなければならない。本体価格の値上げはやむを得ないと判断し、理事長と協議の上、（13号まで600円、14号、15号は800円だったが）今号は1,000円に値上げして発行することにした。

(4) 第4号議案 2023年度通常総会議案書について【報告・討議】

- ・事務局から事前に配布した、現段階での「2023年度総会議案書」(案)を審議した。
 - ・第一号議案 2022年度事業報告承認について
 - ・第三号議案 2023年度事業計画決定について
 - ・第五号議案 任期満了に伴う役員の改選について

<事務局からの説明>

- ・第一号議案は、コロナ禍が続いたという制約があったが、活発に行えた活動はそれほど多くなかった。そんな現状が、率直にかつ分かりやすく書かれているのでしょうか。
- ・自身が高齢化したとか、現役を退き時間がたったとか、リアルで分かりやすい共同保存がなかなか実現しないなどの理由かと思われるが、退会者が続いている。一方で、現役の図書館職員の入会が途絶えている。
- ・また、「第二号議案 2022年度決算報告及び監査報告承認について」と「第四号議案 2023年度活動予算決定について」を理事会に示せていないが、そうした事情は、会計問題と同時に、第三号議案の来年度の活動の立案に課題や制約が生じている。まずは、従来から行ってきた事業の継続、伸長を提案している。
- ・総会記念講演会は、前回の理事会で決まった企画だが、国立国会図書館の個人向けデジタル配信について、同館の職員の方が会場に来て講演してくれることになった。
- ・研究会活動は継続し、図書館職員の具体的な要望もアンケートで顕在化した、ISBNが

付いていない図書の同定識別システムの公表、実用化を目指すことを書いた。

- ・会員や職員、市民へと参加者の間口の広い多摩デポ講座、職員向けの実務的な実践講座、さらに新たに、申し込んだ職員向けに連続講座を行う、多摩地域ライブラリアン講座を提案した。
- ・多摩デポが15年間活動を続けても自力ではリアルな共同保存が実現できず、会員が減少し現役図書館職員達との距離が生まれている。多摩地域の図書館が現状で既に行っている各館での分担保存に留まらないリアルな共同保存の実現に向けた方策を踏み込んで示す必要性が事務局内で話され、考えられる方針を立てた。多摩地域の図書館組織（館長会）とのパートナーシップや、現役の図書館職員が改めて運動の担い手として参加してくれるための意識的な取り組み、館長会と協力し、都立図書館に共同保存の実現を要請していきたいという提案である（単年度で進められることには限りがあるが、そういう方向性を加えた）。
- ・第四号議案の新年度予算の提案はこれからだが、会員減少により（おおよそ年間1冊、16冊を出した）多摩デポブックレットの発行は計上が困難になっている。
- ・借りている調布市の事務所は、4月からの2年契約を更新したところですが、次をどうするかはこの契約期間内の課題である。
- ・第五号議案では、3月に定年退職する前図書館長の理事就任の候補を一人提案した。女性の理事は、現在の事務局員の候補を一任提案した。一方で、二人の理事がご本人の事情から退任を申し出られている。監事の一部交代を提案している。役員全体の若返りや、女性理事を多くすること、元図書館職員ばかりでなく（事務局員と重ならない）有識者の理事就任などの課題が、前回の理事会で話されており、考慮したが、提案できたのは以上である。今期から、元図書館職員の理事を退職時に意識的に加える流れを作っていきたい。

<審議の結果>

- ・第一号議案は、表現の手直しなどの宿題が出されたが、おおむね了承された。
- ・第五号議案は、了承された。
- ・第三号議案の途中から、次回の理事会で審議を続ける。

(5) 情報交換その他

- ・カーリルとの共同研究の定例会が、明日、3月24日（金）午後8時からZOOMで行われる。その状況が報告された。
- ・『多摩デポ通信』第62号に発表した「各都道府県の県域内市町村立図書館への図書資料の保存の取り組み—ホームページから調査—」鬼倉正敏執筆を、日本図書館協会資料保存委員会の会報『ネットワーク資料保存』に転載したいと、同委員会から打診があった。執筆者が見直して転載に応じることになった。

【多摩デポ関係記事】

- ・時になし

【共同保存図書館関連論文】

- ・特になし。

【今後の予定】

- ★ カーリルとの共同研究 定例会 2023年3月24日(金)午後8時より、(Zoom
会議)
- ★ 事務局会議(2023年度第15回) 2023年3月28日(水)午後8時より、(Zoom
会議)
- ★ 次回理事会 2023年度第1回理事会 2023年4月12日(水)午後8時より、
(ZOOM会議)

5 議事録署名人の選任

議事録署名人として2名を選任することを諮り、清田理事、中川理事を選任することを全員異議なく承認した。

以上、この議事録が正確であることを証します。

2023年3月23日

議長

議事録署名人

議事録署名人